

# 第 5 学年外国語科学習指導案

5年2組 指導者 後藤大雄

A L T 上田エカテリーナ

## 単 元 Let' s enjoy good communication in the food court!

### 1 本単元でめざす子どもの姿について

対象と向き合う子どもの姿【対】	自己と向き合う子どもの姿【自】	他者と向き合う子どもの姿【他】
○場面や相手の様子に合わせて表現を選びながら注文時のやり取りをしようとしている。	○場面や相手の様子に合わせて注文時のやり取りができたよさに気付いている。	○仲間のやり取りのよさを見出し、自分のやり取りに取り入れようとしている。

### 2 めざす子どもの姿を実現するために

本学級の子どもたちは、毎時間の「Small Talk」で好きなものや欲しいものを伝え合う際、理由をたずねることができるようになってきている。このような子どもたちが、場面や相手の様子に合わせて注文時のやり取りをする学習に取り組む。このことは、目的や場面、状況に応じて聞いたり話したりしながら自分の考えや気持ちを伝え合おうとする態度を養うことにつながるであろう。

本単元は、慣用表現 *would like* を中心に用いた注文時のやり取りをする学習である。子どもたちは、慣用表現 *would like* や *How much is it?* の表現を用いて、自分が注文したいメニューや支払ってほしい値段を伝え合うであろう。その際、多様な場面や相手に合わせたやり取りをするようにしたい。そうすることで、場面や相手の様子に合わせて表現を用いて質問したり質問に答えたりすることができるように考えるからである。

そこで、以下のような支援を具体化し、本単元でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 授業の導入では、前時の子どもの課題に応じた **Small Talk** を行う。そうすることで、場面や相手の様子に合わせて表現を選びながら注文時のやり取りをしようとするようにすることができるようにする。【対】
- 場面や相手の様子に合わせてやり取りを見取った際は、その意図を問う。そうすることで、仲間のやり取りのよさを見出すことができるようにする。【他】
- 授業の終末には、2つの立場でよかったやり取りを振り返るよう促す。そうすることで、場面や相手の様子に合わせて注文時のやり取りのよさに気付くことができるようにする。【自】

### 3 本単元の目標

- 場面や相手の様子に合わせて表現を選びながら注文時のやり取りをすることができるようにする。
- 目的や場面、状況に応じて聞いたり話したりしながら自分の考えや気持ちを伝えようとするようにすることができるようにする。

### 4 本単元における評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
○注文時のやり取りに必要な表現を理解し、聞いたり話したりすることができる。	○場面や相手の様子に合わせて表現を選びながら聞いたり話したりしている。	○注文時のやり取りに進んで取り組もうとしている。

### 5 指導計画（全5時間）

第1次 注文時のやり取りを知る。（1時間）

第2次 注文時のやり取りをする（4時間）【本時3／4】

6 本時案 【令和元年11月22日 9:25~10:10 5年2組教室】

- (1) ねらい フードコートで注文時のやり取りをすることをおして、相手の様子に合わせながら注文を繰り返したりおすすめしたりすることができるようにする。
- (2) 学習過程 ※下線は3つの向き合う姿が表れている子どもの意識

学習活動・学習内容	子どもの意識	○教師の支援
<p>1 前時の学習を振り返り、Small Talkを行う。(7分)</p> <p>・おすすめする表現</p>	<p>・ 言い方がわからないメニューがあったよ。</p> <p>・ おすすめの仕方もわからないな。どうやっておすすめしたらよいか。</p> <p><b>もっと上手に注文したり接客したりしたいな</b></p> <p>・ Let's Small Talk, 後藤先生がウェイターだ。</p> <p>A I'd like a egg sandwich, 後藤先生。</p> <p><b>How about soda pop, A?</b></p> <p>A Umm...I'd like a soda pop, please.</p> <p>・ “How about drinks?” で、飲み物をすすめることができるのだね。フードフェスタで使えそう。</p>	<p>○子どもの課題に応じた Small Talk を行うことで、相手の様子に合わせておすすめする表現を用いながらやり取りをしようとするができるようにする。【対】</p>
<p>2 フードコートで注文時のやり取りをする。(33分)</p> <p>・ 注文時の表現</p> <p>・ 注文時のやり取り</p> <p>・ おすすめする表現を用いたやり取り</p> <p>・ 注文を繰り返すこと</p>	<p>A 今日も、笑顔で接客だ。Hello! What would you like?</p> <p>B I'd like a paella, please. (デザートも欲しいけれど...どれにしようか迷うな)</p> <p>A B君は、デザート注文したいのかな。</p> <p><b>How about churros? 【対】</b></p> <p>B Yes! えーと、chu...rros?</p> <p>A Churros?</p> <p>・ <u>Aさんは注文を繰り返していて相手のことを考えていてよいね。【他】</u></p> <p>B 次はウェイターだ。僕もおすすめするぞ。</p> <p>・ I'd like a salmon cream spaghetti, please.</p> <p>B drinkはどうするのか。おすすめしてみよう。How about coke?</p> <p>・ Thank you! I'd like coke, please.</p>	<p>○相手の様子に合わせたやり取りを見取った際は、その意図を問うことで、仲間のやり取りのよさを見出そうとすることができるようにする。【他】</p> <p>○授業の終末には、2つの立場でよかったやり取りを振り返るよう促すことで、場面や相手の様子に合わせた注文時のやり取りのよさに気付くことができるようにする。【自】</p>
<p>3 本時の学習を振り返る。(5分)</p> <p>・ 注文時のやり取りのよさ</p>	<p>B 相手が注文に迷っている様子を見て、“How about ~?” を使って、おすすめすることができたよ。</p> <p>・ <u>おすすめしてもらったことで、困っていたけれど注文するメニューを決めることができたよ。【自】</u></p>	

(3) 板書計画

